

令和2年2月6日

令和元年における 特殊詐欺の状況について

警視庁特殊詐欺対策プロジェクト

目 次

1 被害状況

(1) 特殊詐欺全体	・・・1
(2) オレオレ詐欺	・・・4
(3) 架空請求詐欺	・・・8
(4) 融資保証金詐欺	・・・10
(5) 還付金等詐欺	・・・11
(6) その他の詐欺	・・・15
(7) キャッシュカード詐欺盗	・・・16
(8) 犯行予兆電話の通報状況	・・・18
(9) 犯行利用電話の種別	・・・18

2 検挙状況

(1) 特殊詐欺本犯	・・・19
(2) 特殊詐欺助長犯	・・・22

3 未然防止等の状況

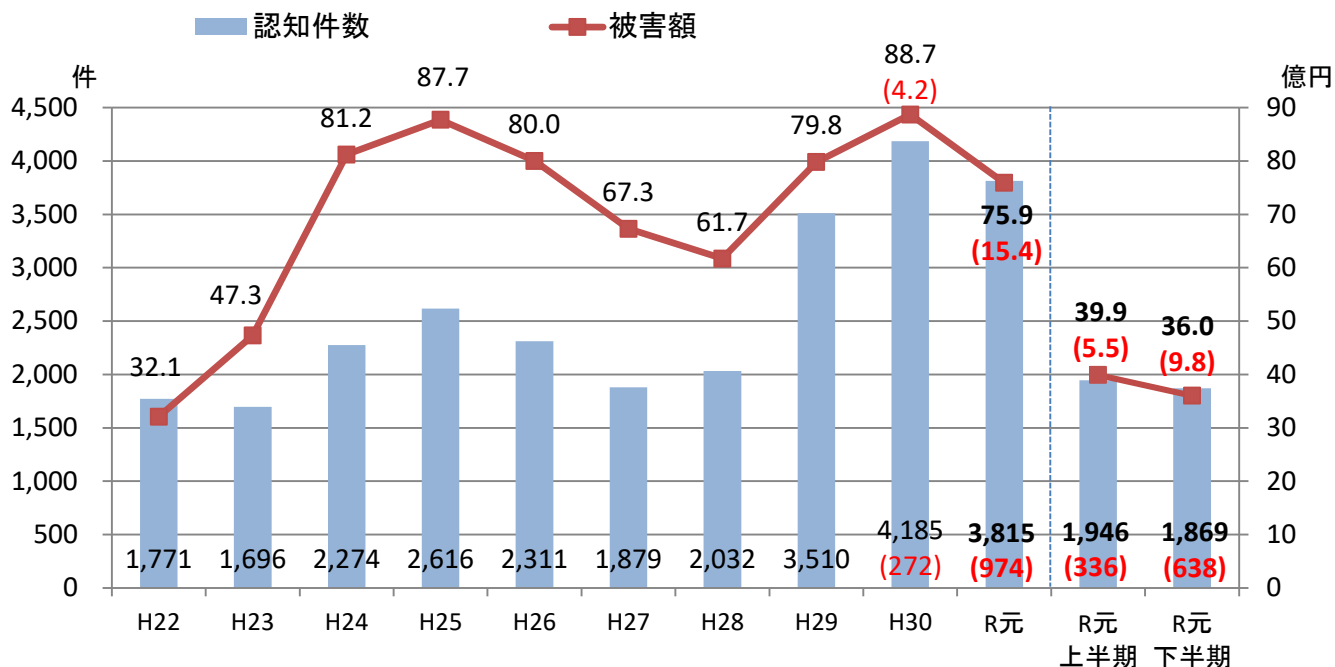
(1) 全体の未然防止状況	・・・23
(2) 金融機関による未然防止状況	・・・24
(3) 全体の被害金調達状況	・・・25
(4) 金融機関における被害金調達状況	・・・25
(5) 金融機関窓口における阻止率	・・・26
(6) 未然防止の好事例	・・・27

※ 本統計に関する割合の数値は、四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

1 被害状況

(1) 特殊詐欺全体

認知状況の推移 (H22~R元)



※ 特殊詐欺とは、オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺、還付金等詐欺、その他の詐欺及びキャッシュカード詐欺盗をいう。

※ H23から振り込め類似詐欺(R元から「その他の詐欺」に名称変更)を、R元からキャッシュカード詐欺盗を追加。

※ 本紙では、R元と対比するため、H30にもキャッシュカード詐欺盗を計上。

※ ()は、キャッシュカード詐欺盗の認知件数及び被害額を内数で示す(以下同じ)。

令和元年における認知状況

	オレオレ		架空請求		融資保証金		還付金等		その他の詐欺		詐欺盗		合計	
	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	既遂	
認知件数	1,068件	965件	557件	536件	32件	32件	1,178件	1,175件	6件	6件	974件	966件	3,815件	3,680件
前年比	-1,039件	-945件	-374件	-380件	-10件	-10件	+360件	+357件	-9件	-9件	+702件	+694件	-370件	-293件
増減率	-49.3%	-49.5%	-40.2%	-41.5%	-23.8%	-23.8%	+44.0%	+43.6%	-60.0%	-60.0%	+258.1%	+255.1%	-8.8%	-7.4%
被害額	2,585,748,499円		1,686,328,010円		62,631,125円		1,678,832,907円		34,919,000円		1,537,729,292円		7,586,188,833円	
前年比	-2,763,427,727円		-231,049,355円		-11,246,174円		+614,432,849円		-12,865,572円		+1,116,559,006円		-1,287,596,973円	
増減率	-51.7%		-12.1%		-15.2%		+57.7%		-26.9%		+265.1%		-14.5%	
平均被害額 (既遂)	2,679,532円		3,146,134円		1,957,223円		1,428,794円		5,819,833円		1,591,852円		2,061,464円	

※ 被害額は、カード詐欺被害におけるその後の引出額を含む(以下同じ)。

※ 詐欺盗は、キャッシュカード詐欺盗を示す(以下同じ)。

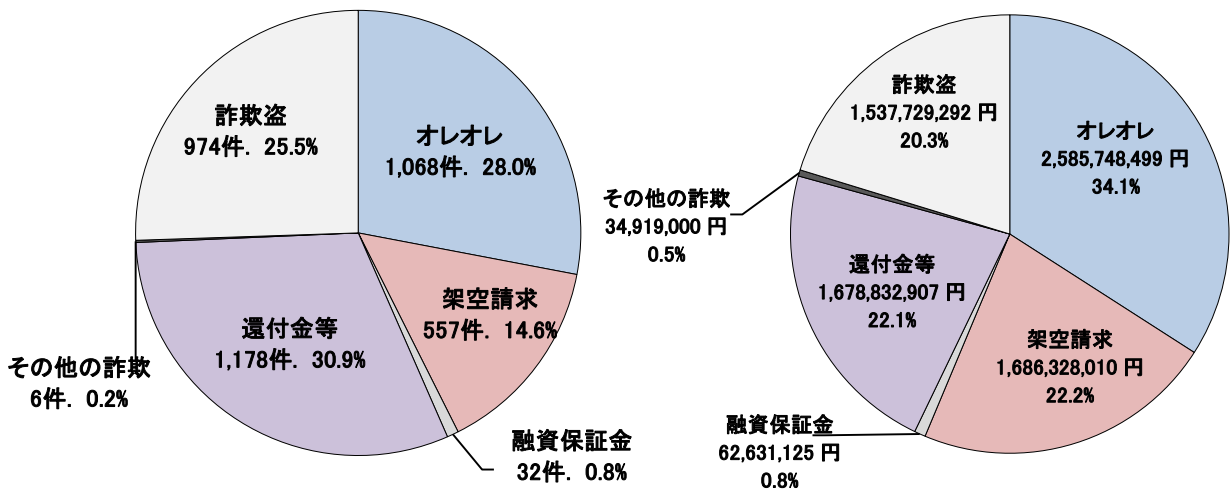
○ 令和元年の被害については、認知件数3,815件、被害額約75億8,619万円で、前年と比べ認知件数は370件(8.8%)、被害額は約12億8,760万円(14.5%)減少した。

○ 前年と比べ、オレオレ詐欺及び架空請求詐欺が大幅に減少し、還付金等詐欺及びキャッシュカード詐欺盗が大幅に増加している。

類型別の認知件数及び被害額

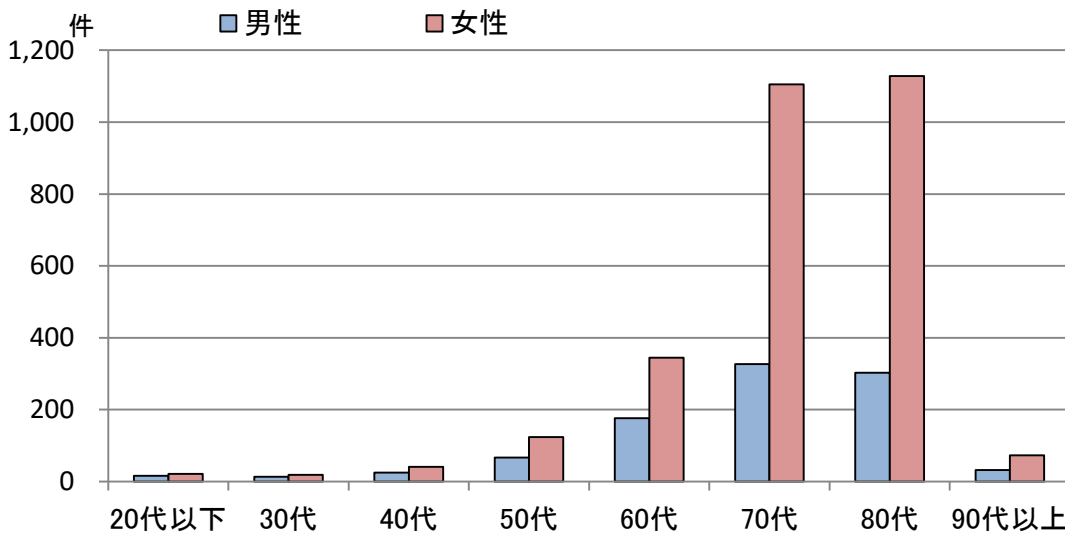
【認知件数 3,815件】

【被害額 75億8,618万8,833円】



- 認知件数は、還付金等詐欺が30.9%を占め、次いでオレオレ詐欺が28.0%、キャッシュカード詐欺盗が25.5%となっている。
- 被害額では、オレオレ詐欺が34.1%を占め、次いで架空請求詐欺が22.2%、還付金等詐欺が22.1%となっている。

年代別・男女別の認知件数

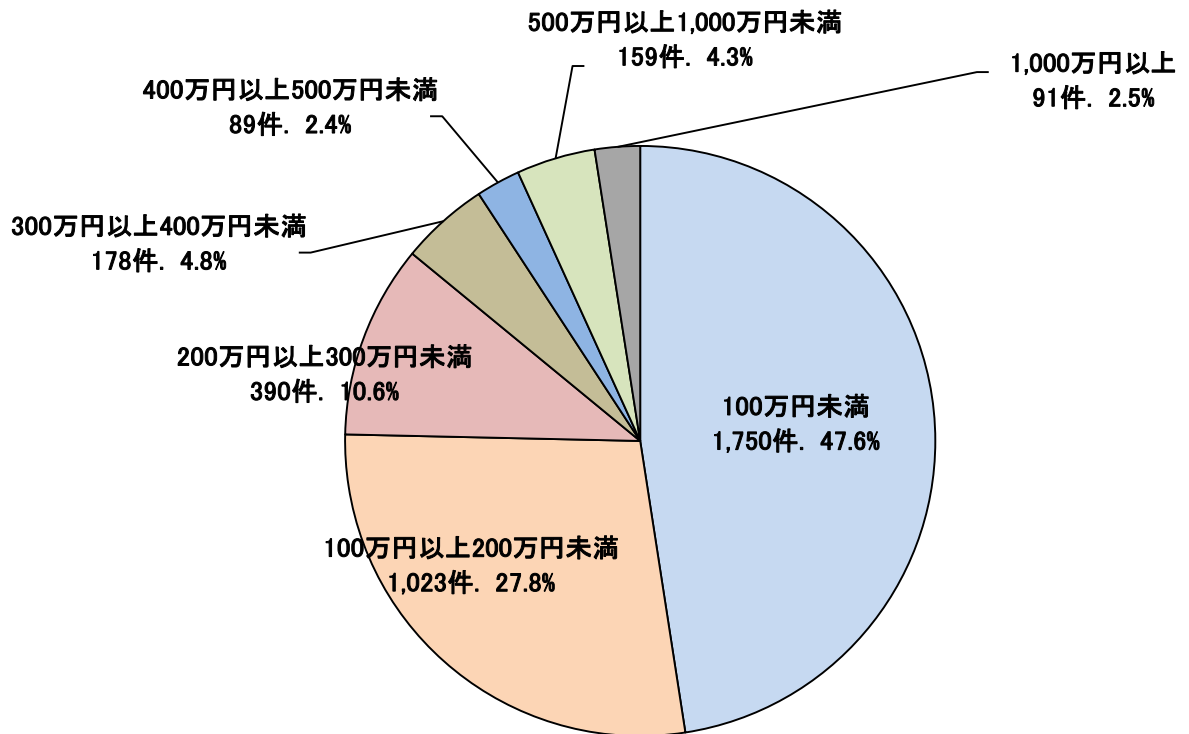


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	16	13	25	67	176	327	303	32	959
女性	21	19	41	124	345	1,105	1,128	73	2,856
合計	37	32	66	191	521	1,432	1,431	105	3,815

- 被害者の77.8% (2,968人) が70代以上、男女別では、74.9% (2,856人) が女性である。

被害額別の認知件数（未遂を除く。）

【認知件数 3,680件】



○ 200万円未満の被害が75.4%を占める一方、1,000万円以上の高額被害も91件発生している。

被害金等受取方法別の被害状況

	振込	現金手交	カード手交	送付	電子マネー	コンビニ決済	ATM決済	その他不明	合計
令和元年	1,249	480	1,804 (974)	103	164	11	4	0	3,815 (974)
割合	32.7%	12.6%	47.3%	2.7%	4.3%	0.3%	0.1%	0%	100%
平成30年	952	1,125	1,674 (272)	104	216	82	27	5	4,185 (272)
割合	22.7%	26.9%	40.0%	2.5%	5.2%	2.0%	0.6%	0.1%	100%

※ ()は、キャッシュカード詐欺盗の件数を内数で示す。

※ 電子マネー ～ 有料サイト利用料名目等で、コンビニエンスストア等で販売されている電子マネーを購入させ、シリアル番号を聞き出す手口

※ コンビニ決済 ～ コンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末等を操作させ、決済を代行させて現金をだまし取る手口(セブンイレブンのみ端末はなく窓口決済)

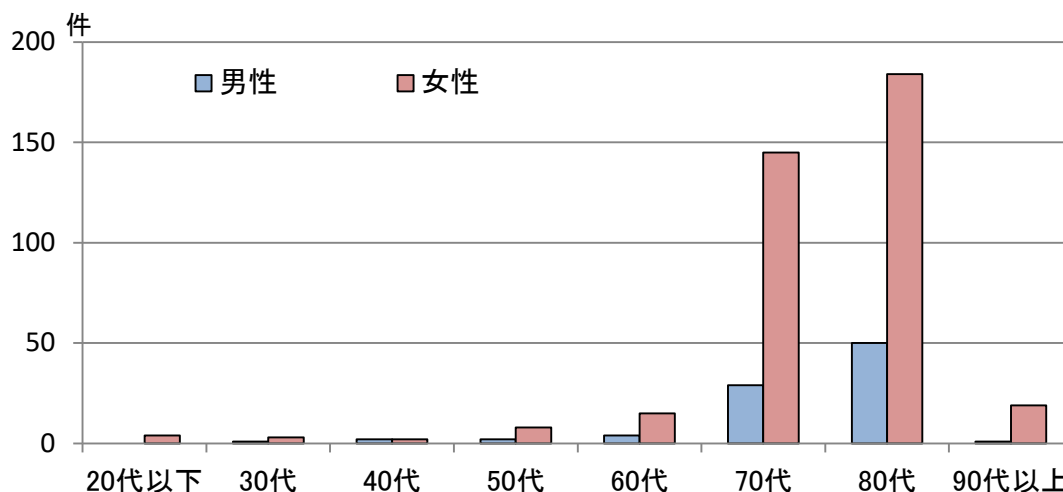
※ ATM決済 ～ Pay-easy(ペイジー)で、コンビニエンスストア以外の金融機関等に設置されているATM(現金自動預払機)等を利用させ、現金をだまし取る手口

○ カード手交が47.3%を占め、次いで、振込が32.7%となっている。

○ 現金手交が大幅に減少している一方、振込及びカード手交が増加している。

(2) オレオレ詐欺

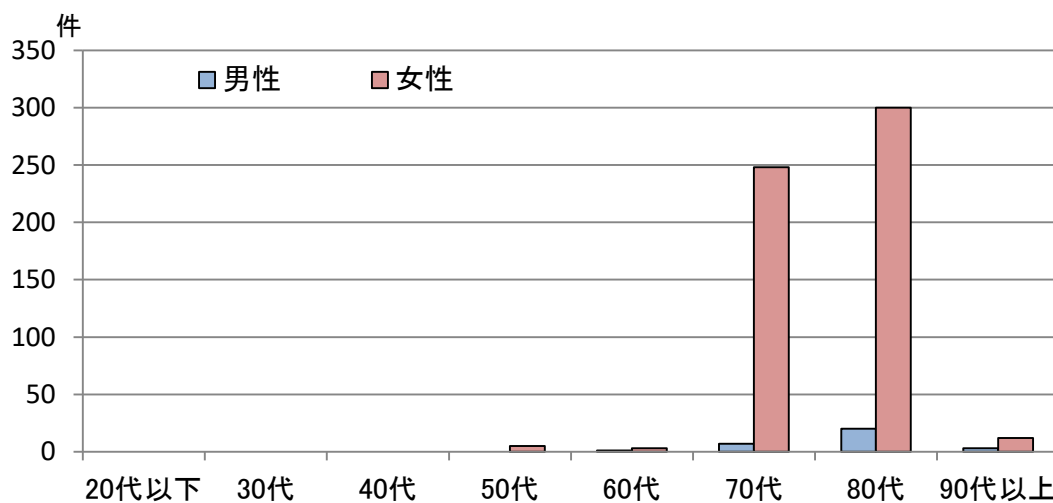
年代別・男女別の認知件数（現金詐取）



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	1	2	2	4	29	50	1	89
女性	4	3	2	8	15	145	184	19	380
合計	4	4	4	10	19	174	234	20	469

○ 被害者の91.3%（428人）が70代以上、男女別では81.0%（380人）が女性であり、いずれも、特殊詐欺全体（70代以上77.8%・女性74.9%）と比べ、高くなっている。

年代別・男女別の認知件数（キャッシュカード等詐取）

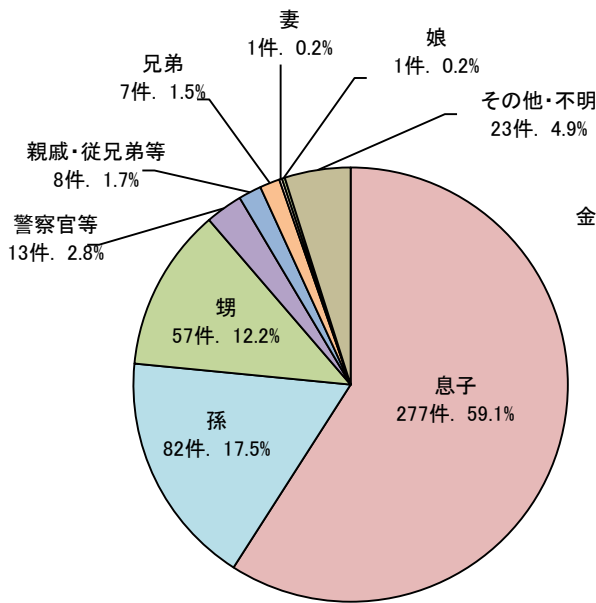


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	0	0	1	7	20	3	31
女性	0	0	0	5	3	248	300	12	568
合計	0	0	0	5	4	255	320	15	599

○ 被害者の98.5%（590人）が70代以上、男女別では、94.8%（568人）が女性であり、いずれも、現金詐取同様に特殊詐欺全体（70代以上77.8%・女性74.9%）と比べ、高くなっている。

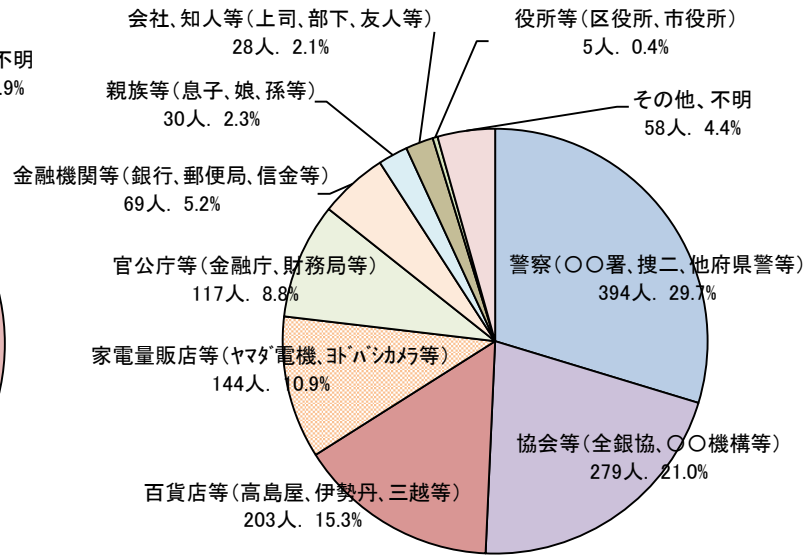
欺罔者（登場人物）別の認知件数

【現金詐取の認知件数 469件】



○ 息子等「親族」騙りが全体の92.3%(433件)を占め、その中で息子騙りが59.1%(277件)で最も多く、次いで孫騙りが17.5%(82件)となっている。

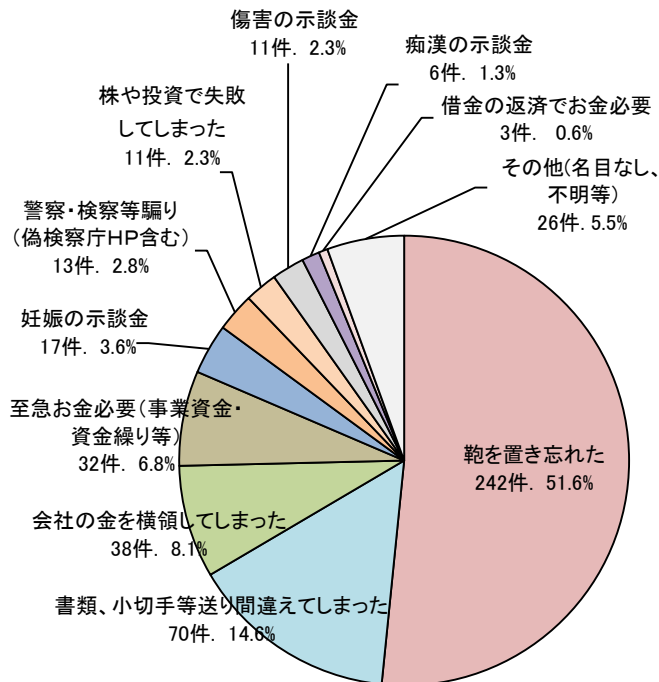
【キャッシュカード等詐取の認知件数 599件】
(1,327人)



○ 「警察」を騙る者が29.7%(394人)で最も多く、次いで「協会等」を騙る者が21.0%(279人)となっている。

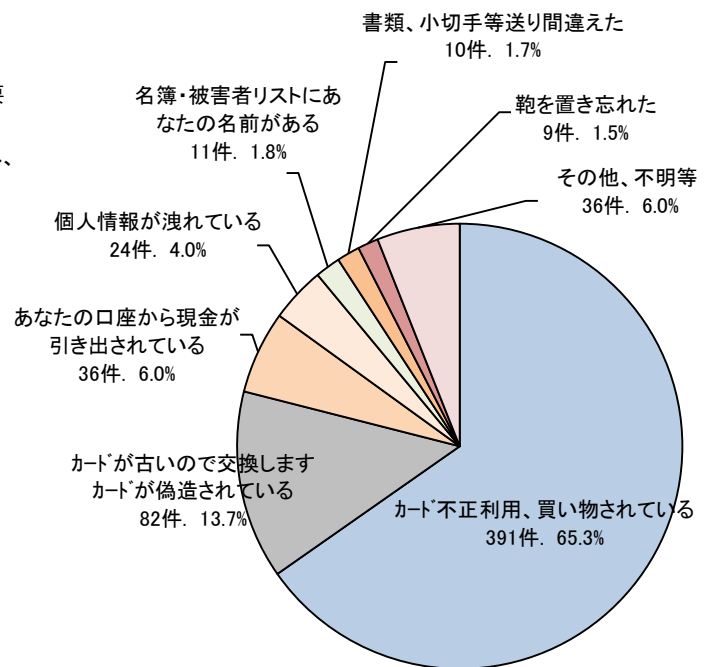
欺罔文言（だまし文句）別の認知件数

【現金詐取の認知件数 469件】



○ 「鞆を置き忘れた」を口実としたものが51.6%を占めている。

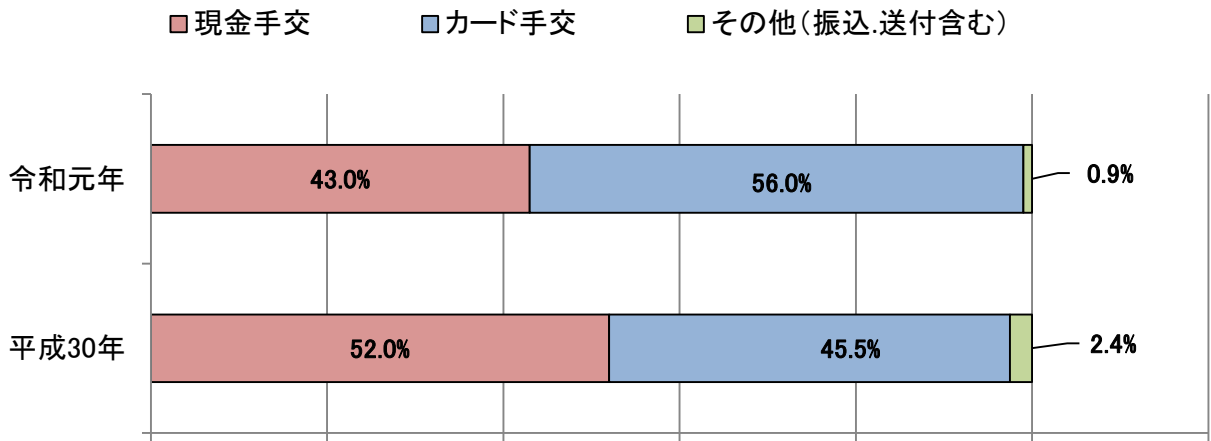
【キャッシュカード等詐取の認知件数 599件】



○ 「あなたのカードが利用されている」、「あなたのカードで買い物している人がある」を口実としたものが65.3%を占め、最も多く、次いで「カードが古いので交換します」、「カードが偽造されています」が13.7%となっている。

被害金等受取方法別の被害状況

	現金振込	現金手交	カード手交	現金送付	カード送付	その他不明	合計
令和元年	10	459	598	0	1	0	1,068
割合	0.9%	43.0%	56.0%	0%	0.1%	0%	100%
平成30年	51	1,096	959	0	1	0	2,107
割合	2.4%	52.0%	45.5%	0%	0.0%	0%	99.9%



- カード手交が56.0%を占めており、前年と比べ、現金手交よりもカード手交の割合が高くなっている。

【オレオレ詐欺の主な手口】

- **鞆忘れ**
親族等を装い、「病院や駅、喫茶店のトイレなどに会社で必要な大事な物（小切手など）が入った鞆を置き忘れて（盗まれて）困っている。」等と言い、現金をだまし取る手口
- **会社の大事な書類又は荷物等を違う場所に送り間違える**
親族等を装い、「会社で使う大事な書類又は荷物、郵便物などを違う場所に送り間違えてしまい、お金が必要になった。」等と言い、現金やカードをだまし取る手口
- **会社の金横領**
親族等を装い、「会社のお金を使って株又は投資に失敗してしまった。今日、監査が入る。穴埋めのお金を貸してくれないか。」等と言い、現金をだまし取る手口
- **妊娠示談金**
親族等を装い、「不倫相手の女性を妊娠させてしまい、慰謝料や弁護士費用を払わなければならない。」等と言い、現金をだまし取る手口
- **傷害示談金**
親族等を装い、「交通事故を起こしてしまい示談金が必要。」「相手に怪我をさせてしまい治療費や示談金が必要。」等と言い、現金をだまし取る手口
- **あなた名義のカードが犯罪に使われている**
警察官又は大手百貨店、家電量販店を装い、「あなた名義のカードで買い物をしている者がいる。カードはお持ちですか。偽造されている可能性があるので、カードと暗証番号を変更する必要があります。」等と言い、キャッシュカードやクレジットカードをだまし取る手口

【前年から継続して発生している手口】

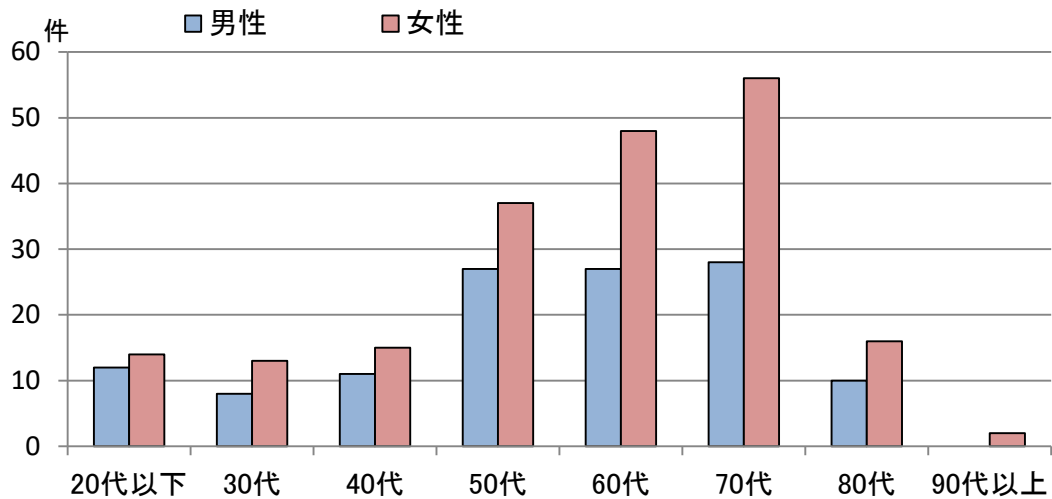
- **偽検察庁ホームページに誘導**
検察庁、警察庁又は捜査第一課・捜査第二課などを装い、直接、携帯電話に電話してきて「あなたの口座が犯罪に利用され、被害者から告訴されている。指定するアドレスをインターネットで検索して確認してください。」などと、偽検察庁ホームページに誘導し、被害者が自身の名前を入力すると本人の名前が表示され、さらに「訴えを取り下げるにはお金が必要だ。」等と言い、現金をだまし取る手口
- **郵便受け（ポスト）利用**
警察官を装い、被害者から現金やキャッシュカードなどをだまし取る際、「我々警察とあなたが接触している姿を犯人が見ているかもしれません。犯人に気付かれないようにするためには逮捕するまで接触しないほうがいいでしょう。キャッシュカード（現金）は、封筒に入れて自宅のポストに入れて置いてください。後で取りに行きます。」等と言い、その後、数分間に、犯人が回収していく手口

【新たに発生している手口】

- **新元号に伴うキャッシュカード詐欺**
全銀協等を装い、「平成から令和に代わり、今お持ちのキャッシュカードが使えなくなります。新しいカードと交換する必要があります。〇〇様のご自宅近くにいる担当者を向かわせますので、古いカードをお渡してください。」等と言い、キャッシュカードをだまし取る手口
- **「『偽札』が出回っている」とのだまし文言で現金詐取**
警察官及び家電量販店等を装い、「あなたのカードが不正に利用されています。あなたの口座も狙われています。口座から下ろしたほうがいいですよ。どのくらい、現金をお持ちですか。〇〇銀行で『偽札』が出回っているようです。確認する必要があります。預けて下さい。」等と言い、現金をだまし取る手口

(3) 架空請求詐欺

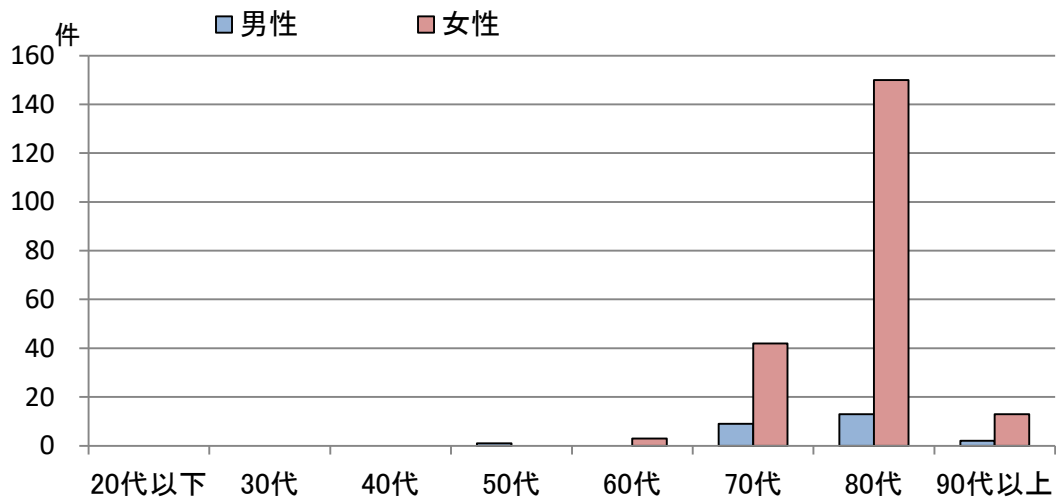
年代別・男女別の認知件数（現金詐取）



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	12	8	11	27	27	28	10	0	123
女性	14	13	15	37	48	56	16	2	201
合計	26	21	26	64	75	84	26	2	324

○ 男女を問わず各年代で被害が発生しており、男女別では62.0%（201人）が女性である。

年代別・男女別の認知件数（キャッシュカード等詐取）



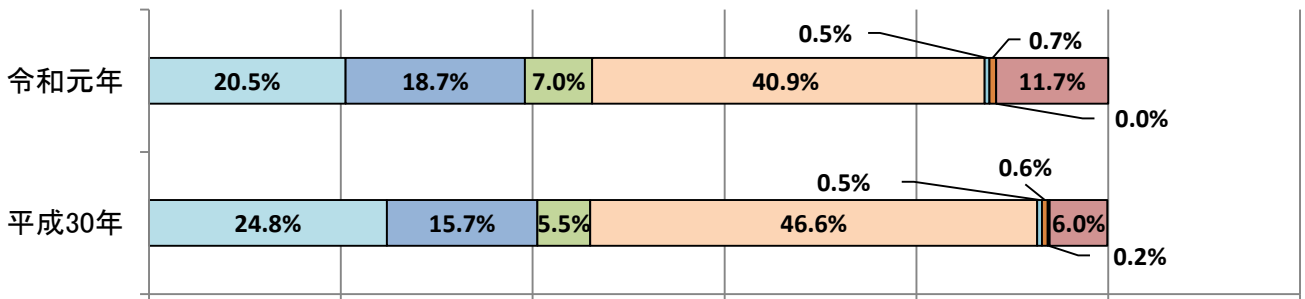
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	0	1	0	9	13	2	25
女性	0	0	0	0	3	42	150	13	208
合計	0	0	0	1	3	51	163	15	233

○ 被害者の98.3%（229人）が70代以上、男女別では、89.3%（208人）が女性であり、いずれも、現金詐取とは異なり、特殊詐欺全体（70代以上77.8%・女性74.9%）と比べ、高くなっている。

欺罔文言（だまし文句）別の認知件数

	有料サイト 利用料	訴訟	サービス 利用料	還付金 (カード手交)	金融商品 等取引	情報購入	個人情報 漏洩等	その他	合計
令和元年	114	104	39	228	3	4	0	65	557
割合	20.5%	18.7%	7.0%	40.9%	0.5%	0.7%	0.0%	11.7%	100%
平成30年	231	146	51	434	5	6	2	56	931
割合	24.8%	15.7%	5.5%	46.6%	0.5%	0.6%	0.2%	6.0%	99.9%

■ 有料サイト利用料 ■ 訴訟 ■ サービス利用料 ■ 還付金(カード手交)
■ 金融商品等取引 ■ 情報購入 ■ 個人情報漏洩等 ■ その他



- 還付金名目によるキャッシュカード手交は、前年と比べ、減少しているものの40.9%（228件）を占め、最も多くなっている。

被害金等受取方法別の被害状況（現金詐取）

	振込 (ネットバンク含む)	現金 手交	現金 送付	電子 マネー	コンビニ 決済	ATM 決済	その他 不明	合計
令和元年	34	21	92	162	11	4	0	324
割合	10.5%	6.5%	28.4%	50.0%	3.4%	1.2%	0%	100%
平成30年	42	28	99	216	82	18	1	486
割合	8.6%	5.8%	20.4%	44.4%	16.9%	3.7%	0.2%	100%

- 電子マネーが50.0%（162件）と最も多く、次いで現金送付が28.4%（92件）となっている。

被害金等受取方法別の被害状況（キャッシュカード等詐取）

	カード手交	カード送付	合計
令和元年	232	1	233
割合	99.6%	0.4%	100%
平成30年	443	2	445
割合	99.6%	0.4%	100%

- カード手交が99.6%（232件）を占めている。

【架空請求詐欺の主な手口】

○ 訴訟示談金・和解金・供託金（はがき・封書）

「消費料金に関する訴訟最終通知のお知らせ」、「裁判準備期間事前通知書」などと記載のはがき等を投函した上で、「裁判取り下げ最終期日を経て、訴訟を開始させていただきます。ご連絡なき場合、原告側の主張が受理され、給与差し押さえ及び動産、不動産物の差し押さえを強制的に履行させていただきます。」等と言い、現金をだまし取る手口

※ 当初、弁護士費用と称して、コンビニエンスストア等のレジ及びマルチメディア端末等で、『コンビニ決済』をさせた後、さらに示談金、和解供託金等と称して、現金を送付させる被害が多かったが、はじめから和解供託金として現金を送付させる手口に移行。

※ 一昨年は、法務省管轄支局及び地方裁判所管理局を差出人とする「はがき」が主流であったが、本年では、民事訴訟管理センター及び民事紛争相談センター、さらには〇〇株式会社及び〇〇日本事業等の団体企業名を差出人にしている傾向もみられる。

○ 医療費又は累積保険料の還付金

電話で区、市役所職員及び銀行員等を騙り「医療費又は累積保険料の過払い金がありますので返金致します。今お持ちのキャッシュカードはどちらの銀行口座になりますか。それでは、こちらで手続き致します。〇〇銀行の職員がカードを取りに伺いますので、渡してください。」等と言い、キャッシュカードをだまし取る手口

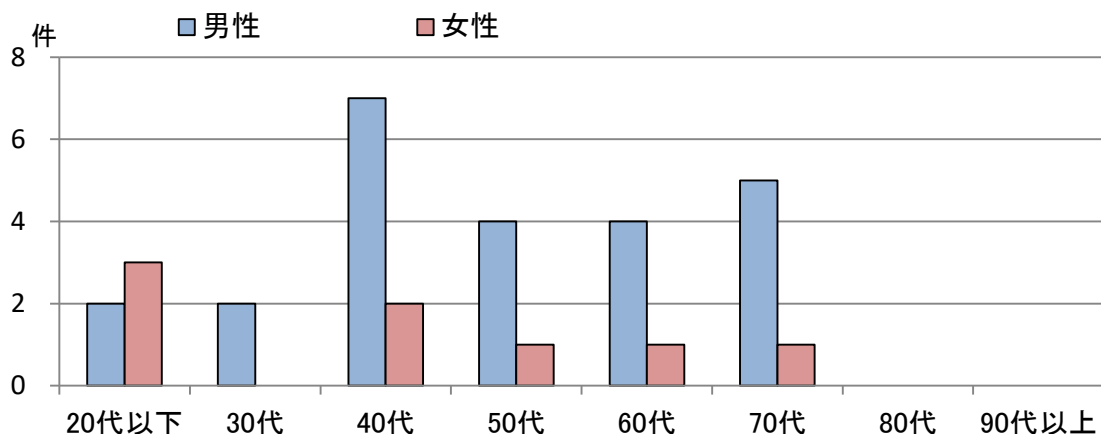
○ 有料サイト利用料金目

メールで有料サイトの利用料金等が未納であると伝え、「利用料金や延滞料金を支払わないと訴訟になる。」等と言い、現金をだまし取る手口

※ 特にコンビニエンスストア等で「Webマネー又はビットキャッシュ」等の『電子マネー』を購入させ、13桁のシリアル番号等を犯人に伝える手口は減少傾向にあるものの、被害は発生している。

(4) 融資保証金詐欺

年代別・男女別の認知件数

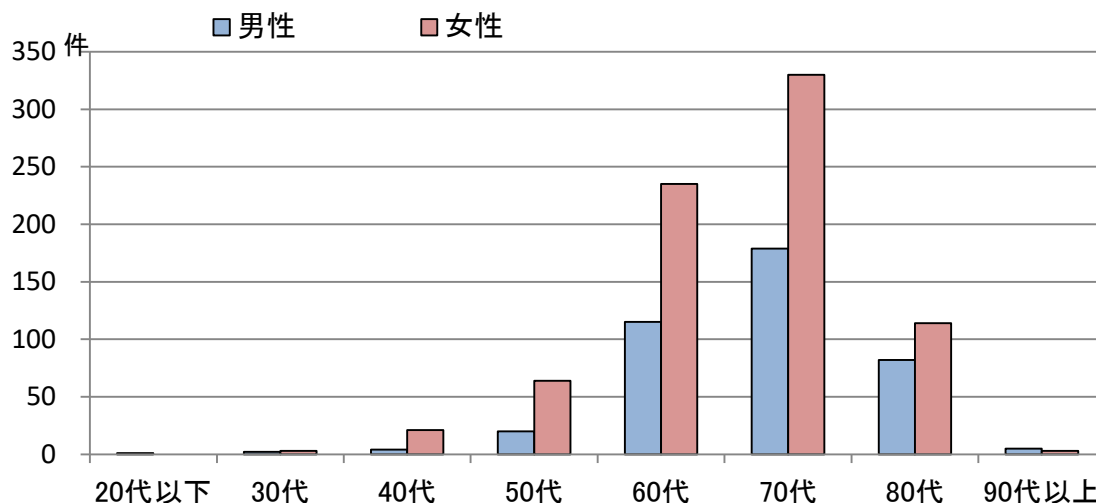


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	2	2	7	4	4	5	0	0	24
女性	3	0	2	1	1	1	0	0	8
合計	5	2	9	5	5	6	0	0	32

○ 30代女性の発生はないものの、20代から70代までの各年代で被害が発生している。

(5) 還付金等詐欺

年代別・男女別の認知件数

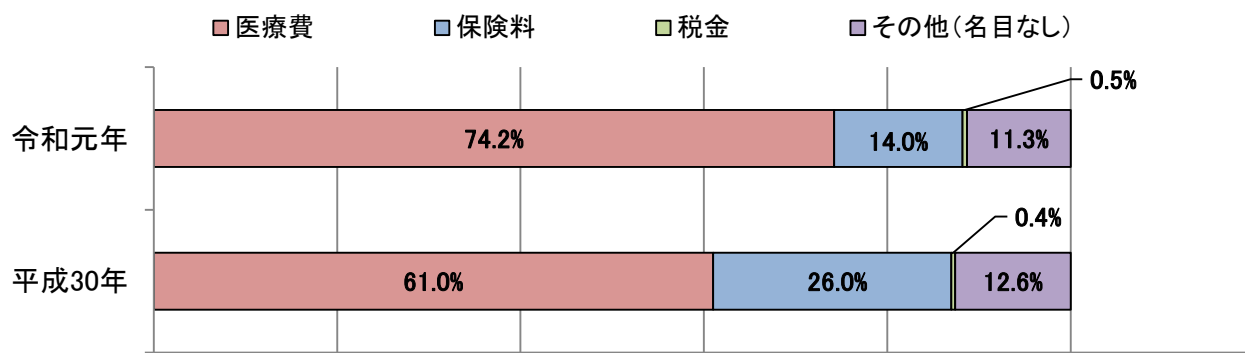


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男	1	2	4	20	115	179	82	5	408
女	0	3	21	64	235	330	114	3	770
合計	1	5	25	84	350	509	196	8	1,178

○ 被害者の90.2% (1,063人) は60代以上、男女別では65.4% (770人) が女性を占めている。

還付名目別の認知件数

	医療費	保険料	税金	その他	合計
令和元年	874	165	6	133	1,178
割合	74.2%	14.0%	0.5%	11.3%	100%
平成30年	499	213	3	103	818
割合	61.0%	26.0%	0.4%	12.6%	100%

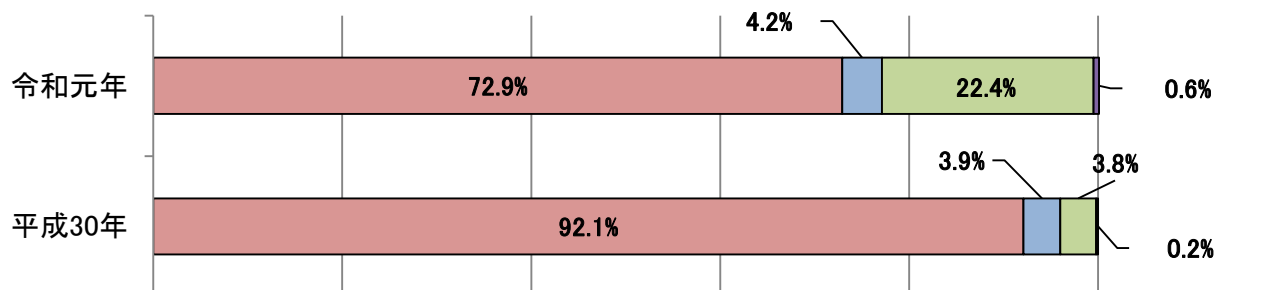


○ 医療費の還付名目が74.2% (874件) を占め、最も多くなっている。

場所別の振込回数

	金融機関 無人ATM	コンビニ ATM	金融機関 店舗内ATM	その他 不明	合 計
令和元年	2,115	121	651	16	2,903
割合	72.9%	4.2%	22.4%	0.6%	100.1%
平成30年	1,658	71	69	3	1,801
割合	92.1%	3.9%	3.8%	0.2%	100%

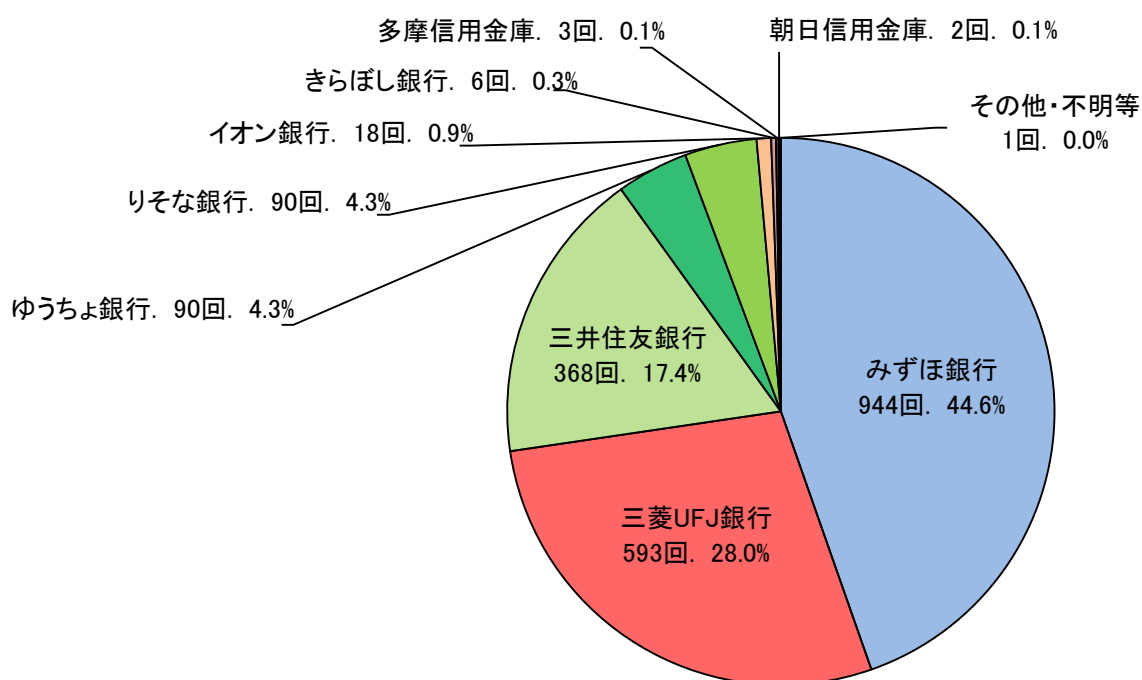
■金融機関無人ATM ■コンビニATM ■金融機関店舗内ATM ■その他・不明



- 金融機関無人ATMでの振込みは全体の72.9%を占め、次いで、金融機関店舗内ATMでの振込みが22.4%となっている。
- 前年と比べ、金融機関店舗内ATMでの割合が増加し、金融機関無人ATMが減少している。

場所別の振込回数（無人ATMの金融機関別）

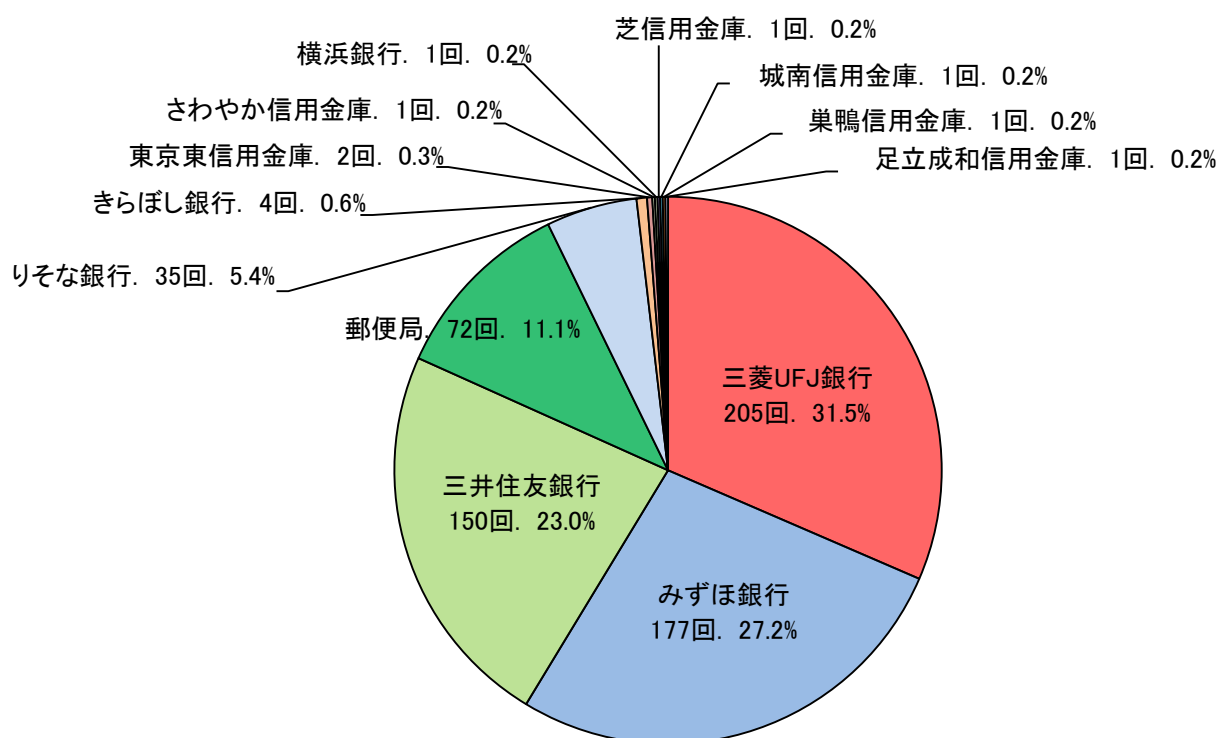
【振込回数 2,115回】



- 「無人ATM」の金融機関別では、みずほ銀行が44.6%（944回）で最も多く、次いで三菱UFJ銀行が28.0%（593回）となっている。

場所別の振込回数（店舗内A T Mの金融機関別）

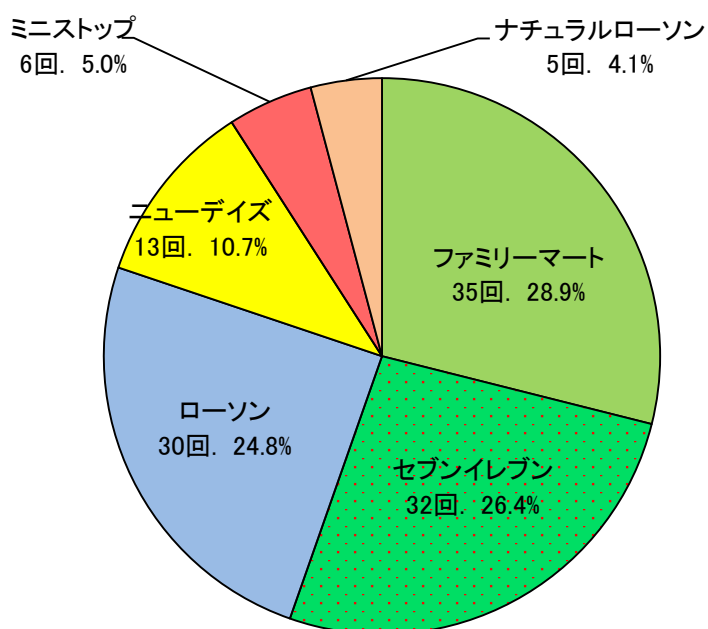
【振込回数 651回】



○ 「店舗内A T M」の金融機関別では、三菱U F J 銀行が31.5%（205回）で最も多く、次いで、みずほ銀行が27.2%（177回）となっている。

場所別の振込回数（コンビニ別）

【振込回数 121回】



○ 「コンビニA T M」では、ファミリーマートが28.9%（35回）で最も多く、次いでセブンイレブンが26.4%（32回）となっている。

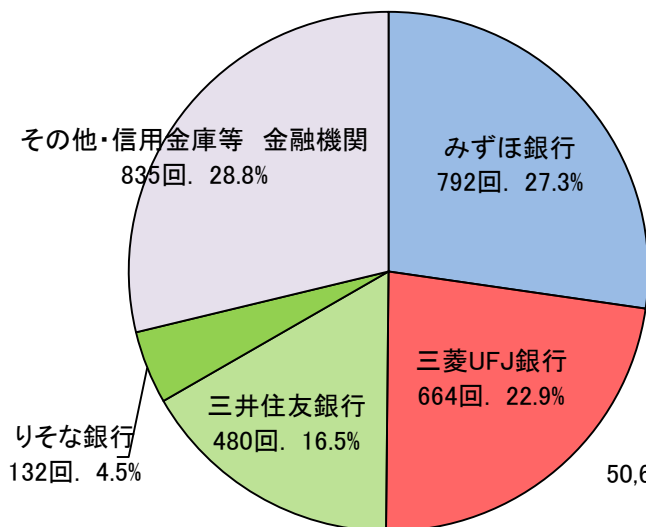
被害者利用口座（金融機関別）の件数・回数

	みずほ銀行		三菱UFJ銀行		三井住友銀行		りそな銀行		その他金融機関		合計	
	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数
令和元年	321	792	279	664	172	480	32	132	374	835	1,178	2,903
割合	27.2%	27.3%	23.7%	22.9%	14.6%	16.5%	2.7%	4.5%	31.7%	28.8%	99.9%	100%
平成30年	254	618	208	432	95	221	34	82	227	448	818	1,801
割合	31.1%	34.3%	25.4%	24.0%	11.6%	12.3%	4.2%	4.6%	27.8%	24.9%	100.1%	100.1%

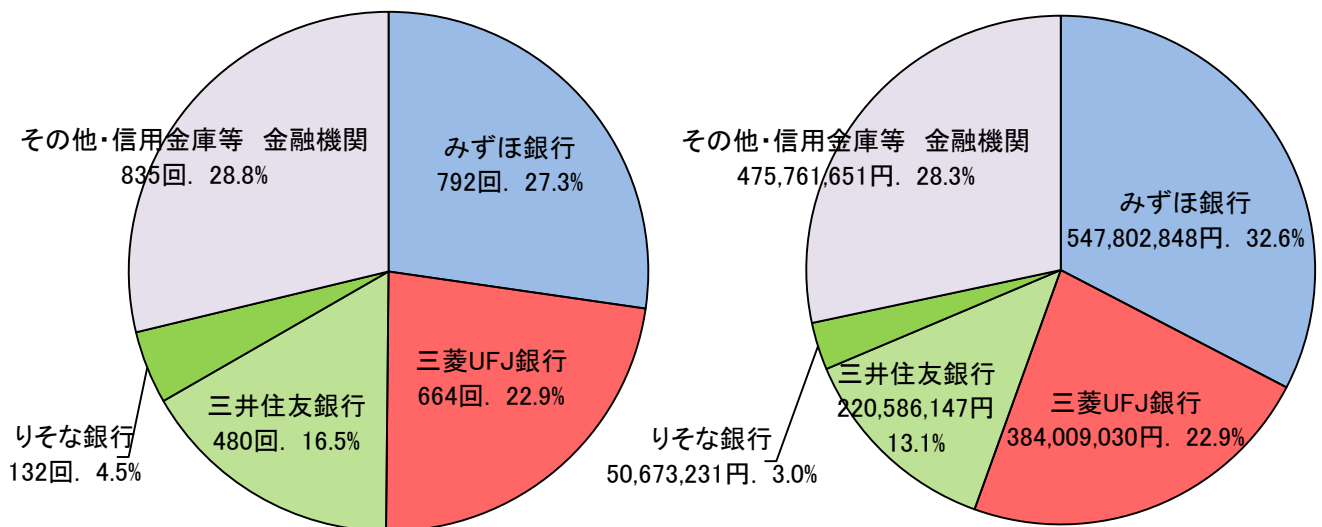
被害者利用口座（金融機関別）の振込被害額

	みずほ銀行	三菱UFJ銀行	三井住友銀行	りそな銀行	その他金融機関	合計
	令和元年	約5億4,780万円	約3億8,401万円	約2億2,059万円	約5,067万円	約4億7,576万円
割合	32.6%	22.9%	13.1%	3.0%	28.3%	99.9%
平成30年	約4億0,370万円	約2億5,280万円	約1億0,375万円	約4,375万円	約2億6,040万円	約10億6,440万円
割合	37.9%	23.8%	9.7%	4.1%	24.5%	100%

【振込回数 2,903回】



【振込被害額 16億7,883万2,907円】



- 被害者利用口座の金融機関別の回数では、みずほ銀行が27.3%（792回）で最も多く、次いで三菱UFJ銀行が22.9%（664回）となっている。
- 被害者利用口座の金融機関別の振込被害額でも、みずほ銀行が32.6%（約5億4,780万円）で最も多く、次いで三菱UFJ銀行が22.9%（約3億8,401万円）となっている。

(6) その他の詐欺

年代別・男女別の認知件数

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男	1	0	0	0	0	2	1	0	4
女	0	0	0	0	1	1	0	0	2
合計	1	0	0	0	1	3	1	0	6

欺罔文言（だまし文句）別の認知件数

	金融商品 等取引	ギャンブル 必勝法	異性交際 あっせん	その他	合計
令和元年	0	6	0	0	6
割合	0%	100%	0%	0%	100%
平成30年	2	5	6	2	15
割合	13.3%	33.3%	40.0%	13.3%	99.9%

被害金等受取方法別の被害状況

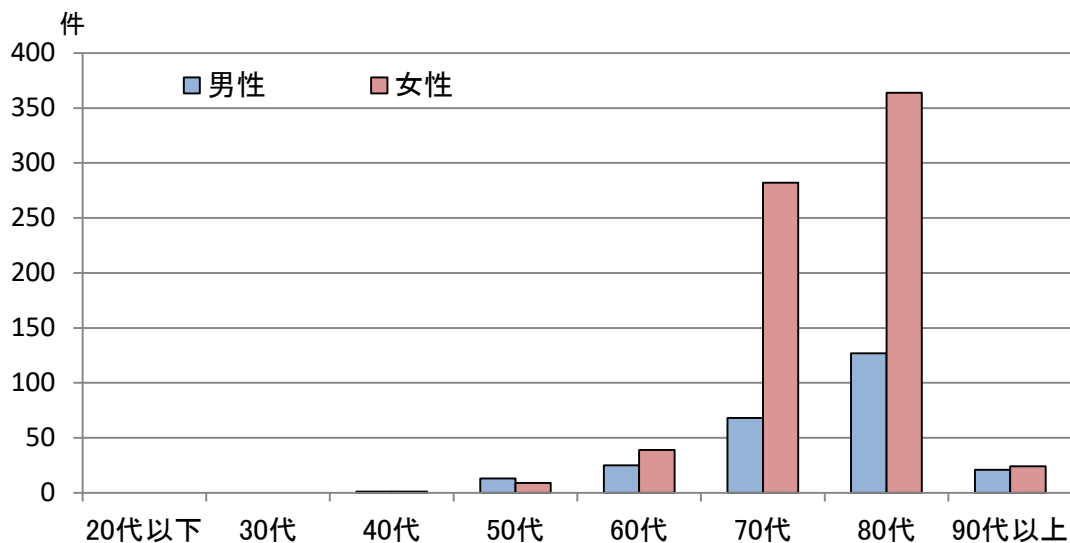
	現金手交	送付	ATM振込	その他・不明 (ネットバンキング含)	合計
令和元年	0	2	3	1	6
割合	0%	33.3%	50.0%	16.7%	100%
平成30年	1	0	9	5	15
割合	6.7%	0%	60.0%	33.3%	100%

【その他の詐欺の主な手口】

- **ギャンブル必勝法情報提供**
冊子等により、虚偽の情報を提供し、情報料や会員登録料等の名目で現金をだまし取る手口
- **異性交際があっせん**
異性交際があっせんする等の虚偽の情報を提供し、会員登録料や保証金等の名目で現金をだまし取る手口
- **金融商品等取引**
実際には価値がない有価証券等について、電話やダイレクトメールにより虚偽の情報を提供して、有価証券又は有価証券のようなもの等を交付し、購入すれば利益が得られる等の名目及び名義貸しによるトラブル解決のための費用名目で現金をだまし取る手口

(7) キャッシュカード詐欺盗

年代別・男女別の認知件数



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	1	13	25	68	127	21	255
女性	0	0	1	9	39	282	364	24	719
合計	0	0	2	22	64	350	491	45	974

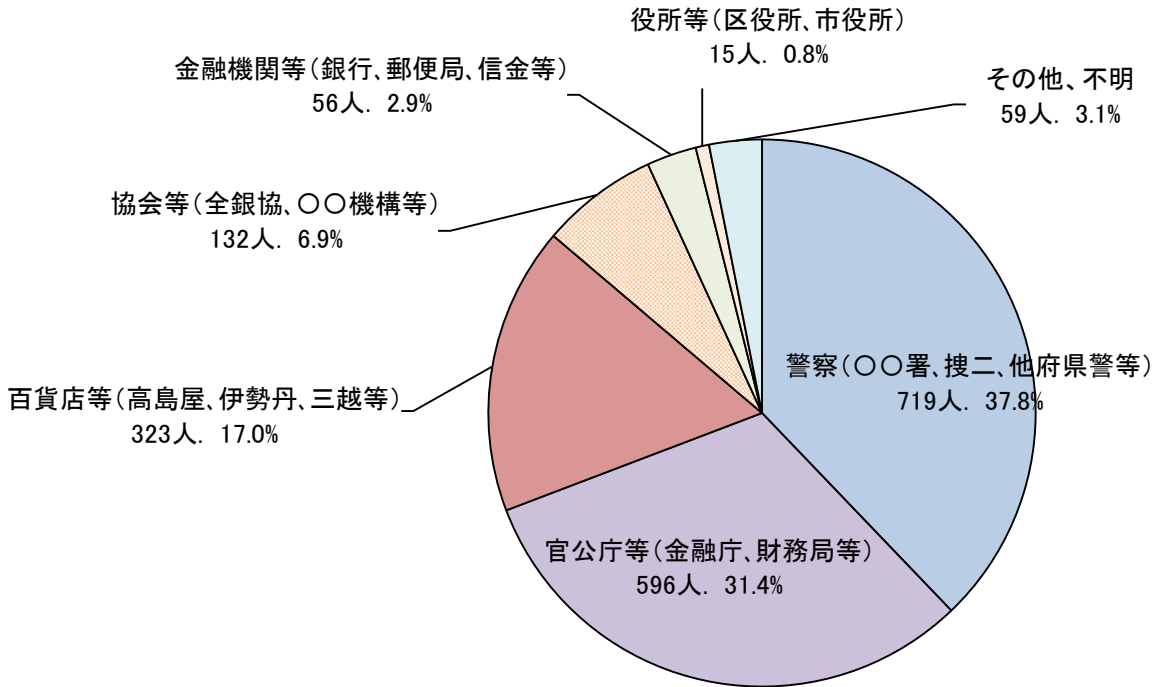
- 被害者の91.0% (886人) が70代以上、男女別では、73.8% (719人) が女性となっている。
- 特殊詐欺全体 (70代以上77.8%・女性74.9%) と比べ、70代以上の被害者は高くなっている。

【キャッシュカード詐欺盗の主な手口】

- **キャッシュカード在中の封筒を別の封筒にすり替えて盗み取る**
警察官又は大手百貨店、金融庁職員等を装い、「あなた名義のカードで買い物をしてる者がいます。あなたのカードが悪用されています。カードを確認する必要があります。」等と言い、キャッシュカードをすり替えて、盗み取る手口
- ※ 被疑者は金融庁職員等を装い、被害者宅に訪れ、自ら準備してきた封筒に被害者名義等のキャッシュカード及び暗証番号記載のメモを入れさせた後、封印するために、「印鑑はありますか？印鑑を持ってきてください。」と被害者に申し向ける。
その後、被害者が印鑑を取りに行った際に、あらかじめ準備していたポイントカードやトランプ等在中の封筒にすり替えて、戻ってきた被害者にすり替えた封筒に封印させた後、「新しいカードが届くまで、この封筒は開封せずに保管しておいてください。」などと申し向け、すり替えたキャッシュカードを盗み取るもの。

欺罔者(登場人物)別の認知件数

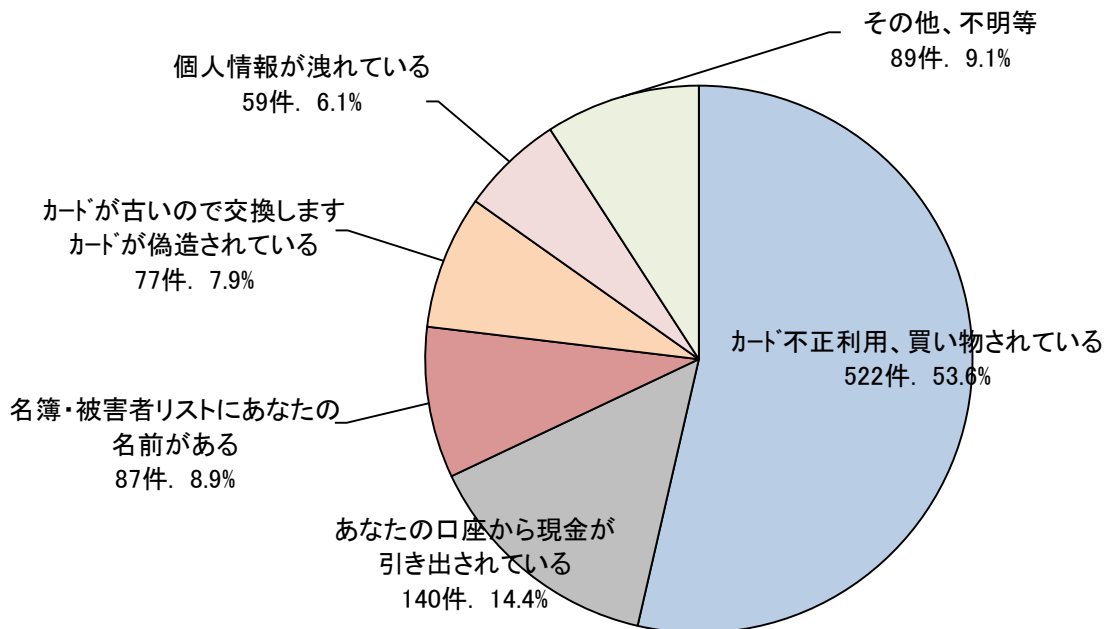
【認知件数 974件・欺罔者(登場人物) 1,900人】



- 「警察」を騙る者が37.8% (719人) で最も多く、次いで「官公庁等(金融庁、財務局等)」を騙る者が31.4% (596人) となっている。

欺罔文言(だまし文句)別の認知件数

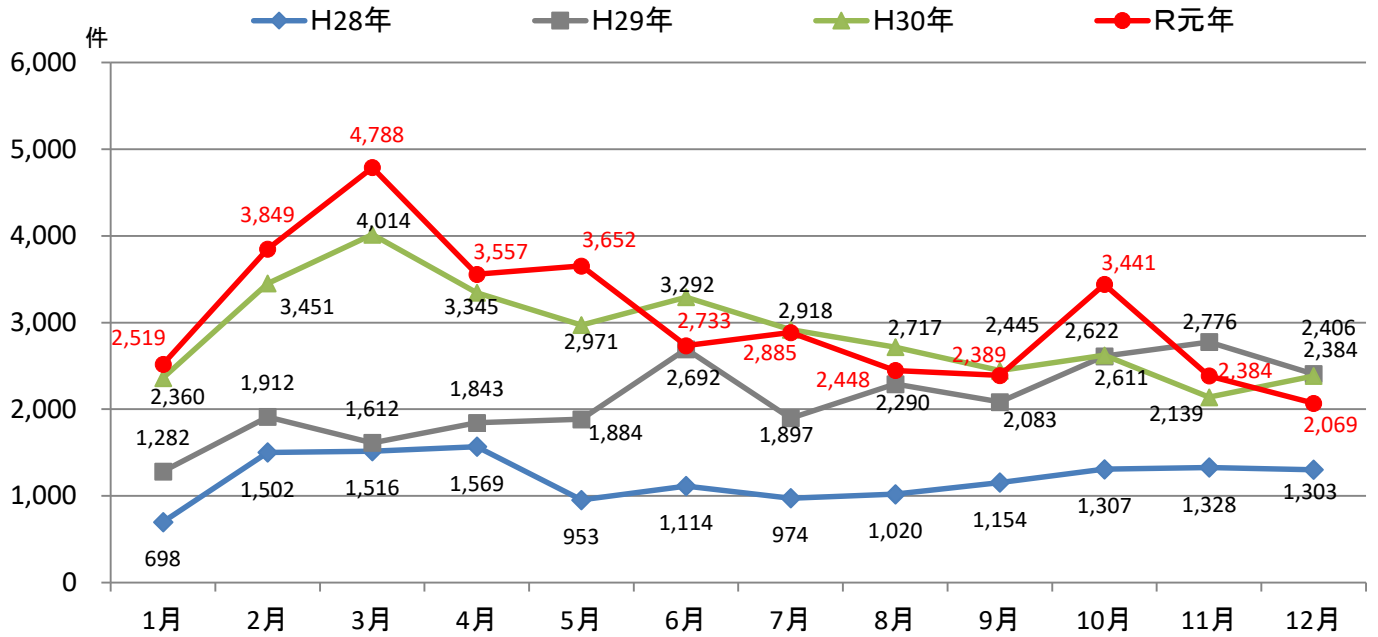
【認知件数 974件】



- 「あなたのカードが不正に利用されている」、「あなたのカードで買い物している人がいる」を口実としたものが53.6%で最も多く、次いで「あなたの口座から現金が引き出されている」を口実としたものが、14.4%となっている。

(8) 犯行予兆電話の通報状況

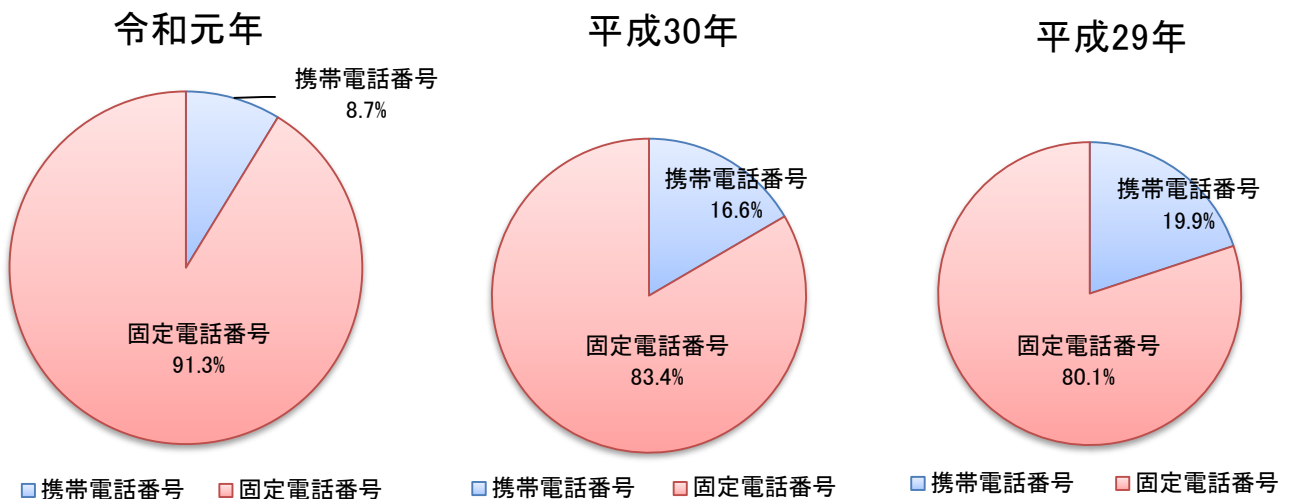
【犯行予兆電話通報件数（平成28年～令和元年）】



○ 令和元年の犯行予兆電話通報件数は36,714件で、前年と比べ2,056件増加し、特に3月は大幅に増加している。

令和元年	→	36,714件	(前年比 +2,056件)
平成30年	→	34,658件	(前年比 +9,370件)
平成29年	→	25,288件	(前年比 +10,850件)
平成28年	→	14,438件	

(9) 犯行利用電話の種別



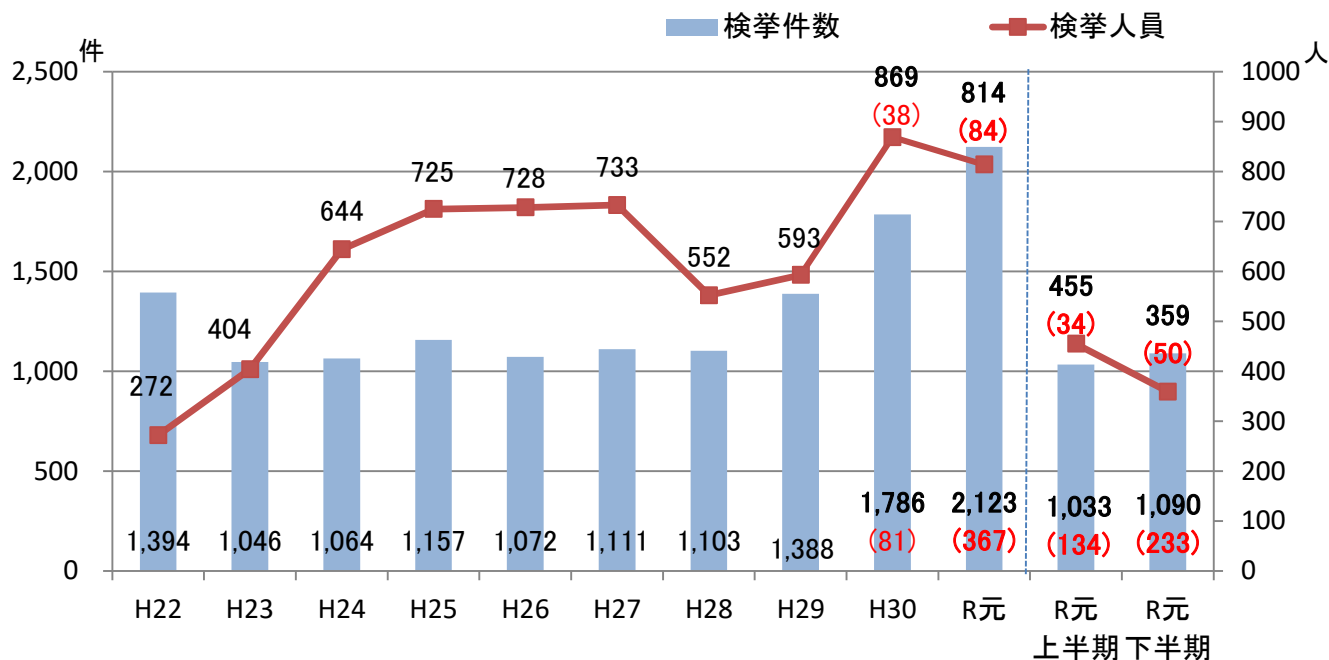
○ 令和元年における犯行利用電話受理件数の割合は、固定電話番号91.3%、携帯電話番号8.7%であり、平成29年から比べると、携帯電話番号が減少し、固定電話番号が増加している。

※ 固定電話番号とは、犯人が使用している固定電話や携帯電話からの発信を、インターネット上で電話転送し、被害者の電話に掛かってくる電話番号が『03又は06』等からはじまる全国の固定電話番号や『050』からはじまる電話番号で着信表示させるもの。

2 検挙状況

(1) 特殊詐欺本犯

検挙状況の推移 (H22～R元)



※ H23年から振り込み類似詐欺 (R元から「その他の詐欺」に名称変更) を、R元からキャッシュカード詐欺盗を追加。

※ 本紙では、R元と対比するため、H30にもキャッシュカード詐欺盗を計上。

※ ()は、キャッシュカード詐欺盗の検挙件数及び検挙人員を内数で示す。

類型別の検挙状況

		オレオレ	架空請求 (架空恐喝含む)	融資保証金	還付金等	その他の 詐欺	キャッシュカード* 詐欺盗	合計
検挙 件数	令和元年	933	457	47	298	21	367	2,123
	平成30年	1,099	381	109	78	38	81	1,786
	前年比	-166	+76	-59	+220	-17	+286	+337
	増減率	-15.1%	+19.9%	-54.1%	+282.1%	-44.7%	+353.1%	+18.9%
検挙 人員	令和元年	468	221	10	19	12	84	814
	平成30年	592	190	9	24	16	38	869
	前年比	-124	+31	+1	-5	-4	+46	-55
	増減率	-20.9%	+16.3%	+11.1%	-20.8%	-25.0%	+121.1%	-6.3%

○ 前年と比べ、検挙件数は増加しているものの、検挙人員は若干減少している。

犯行拠点 (アジト) 摘発状況

	摘発箇所	検挙人員
令和元年	23	104
平成30年	32	103
前年比	-9	+1

○ 犯行拠点 (アジト) の摘発は23箇所、104人で、前年と比べ摘発箇所は9箇所減少したものの、検挙人員は1人増加している。

年代別・男女別の検挙人員

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
令和元年	男	143 (23)	400 (41)	122 (6)	60 (4)	16	5	0	746 (74)
	女	17 (6)	30 (2)	12 (2)	3	5	0	1	68 (10)
	合計	160 (29)	430 (43)	134 (8)	63 (4)	21	5	1	814 (84)
	前年比	-98	+54	-5	+9	-12	-3	±0	-55
	割合	19.7%	52.8%	16.5%	7.7%	2.6%	0.6%	0.1%	100%
平成30年	男	239 (17)	359 (10)	134 (5)	50 (2)	32 (1)	8	1	823 (35)
	女	19 (2)	17	5	4 (1)	1	0	0	46 (3)
	合計	258 (19)	376 (10)	139 (5)	54 (3)	33 (1)	8	1	869 (38)
	割合	29.7%	43.3%	16.0%	6.2%	3.8%	0.9%	0.1%	100%

※ ()は、キャッシュカード詐欺盗の検挙人員を内数で示す。

- 検挙人員の男女別では、91.6% (746人) が男性で占めているが、前年と比べ、割合は減少している。
- 年代別の男女別では、10代から30代までの男性が665人で、男性全体の89.1%を占めている。
- 人数は少ないものの、女性は10代から50代までと幅広く、最も多い20代が44.1% (30人) となっており、前年と比べ、女性が増加傾向となっている。
- 10代から30代の被疑者が、全体の88.9% (724人) を占め、60代以上の被疑者は0.7% (6人) となっている。
- 少年 (10代) の被疑者は、前年と比べ、98人減少している。

暴力団・外国人別の検挙人員

		検 挙 人 員		
			うち暴力団	うち外国人
令和元年	男	746 (74)	186 (12)	39 (2)
	女	68 (10)	2	9
	合計	814 (84)	188 (12)	48 (2)
	前年比	-55	-91	+3
	割合	100%	23.1%	5.9%
平成30年	男	823 (35)	274 (7)	38 (1)
	女	46 (3)	5 (1)	7
	合計	869 (38)	279 (8)	45 (1)
	割合	100%	32.1%	5.2%

※ ()は、キャッシュカード詐欺盗の検挙人員を内数で示す。

- 23.1% (188人) が暴力団構成員等、5.9% (48人) が外国人となっており、前年と比べ、暴力団構成員等は91人減少しているものの、外国人は3人増加している。

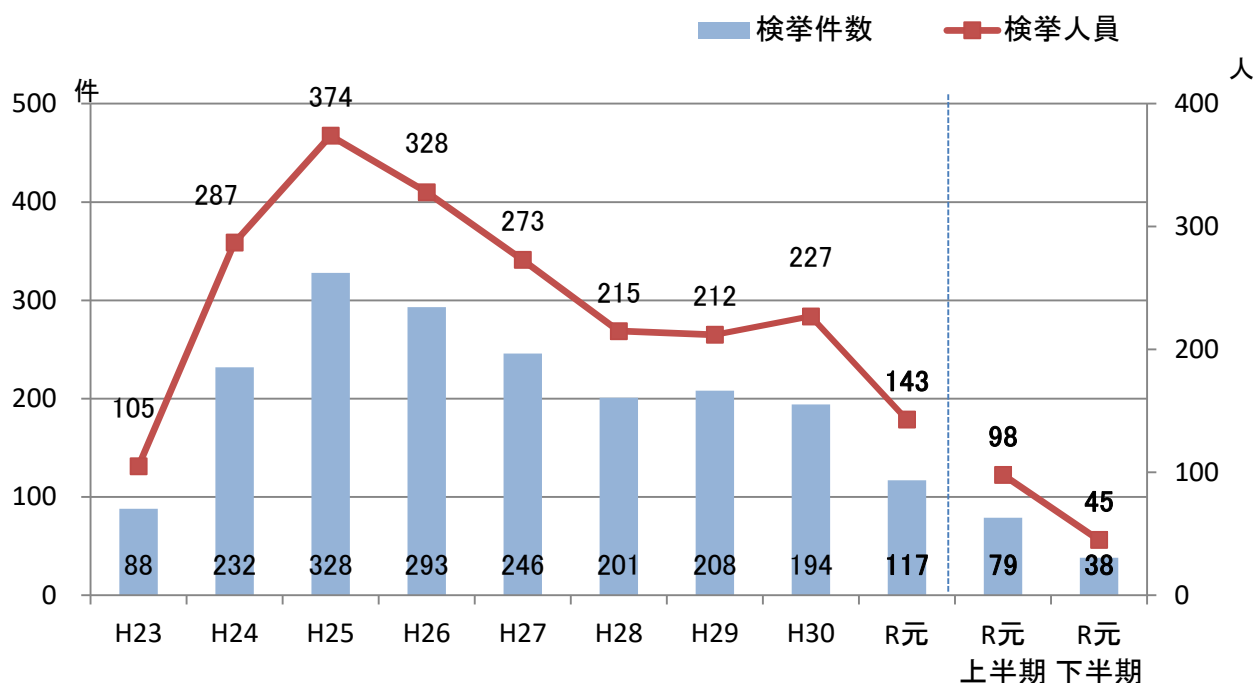
役割別・男女別の検挙人員

		首魁	指示役	だまし役	出し子	受け子	見張り役	リクルーター	その他	合 計
令和元年	男	21	25 (2)	94 (4)	31 (4)	382 (55)	21 (2)	91 (4)	81 (3)	746 (74)
	女	0	0	14	3 (1)	42 (8)	0	3 (1)	6	68 (10)
	合 計	21	25 (2)	108 (4)	34 (5)	424 (63)	21 (2)	94 (5)	87 (3)	814 (84)
	前年比	+10	-20	-16	+8	-68	-21	+10	+42	-55
	割 合	2.6%	3.1%	13.3%	4.2%	52.1%	2.6%	11.5%	10.7%	100.1%
平成30年	男	11 (2)	43	121 (3)	21	466 (28)	37	80 (2)	44	823 (35)
	女	0	2	3	5	26 (3)	5	4	1	46 (3)
	合 計	11 (2)	45	124 (3)	26	492 (31)	42	84 (2)	45	869 (38)
	割 合	1.3%	5.2%	14.3%	3.0%	56.6%	4.8%	9.7%	5.2%	100.1%

※ ()は、キャッシュカード詐欺盗の検挙人員を内数で示す。

- 受け子の検挙人員は、全体の52.1%を占めている。
- 受け子の男女別では、90.1% (382人) が男性で占めているものの、前年と比べ、割合は減少している。
- 受け子の女性は、前年と比べ61.5% (16人) 増加している。
- 役割別のうち、首魁、出し子及びリクルーターは、前年と比べ、増加している。

現場設定（だまされた振り作戦）による検挙状況



- だまされた振り作戦による「現場設定検挙」は、前年と比べ検挙件数は77件、検挙人員は84人それぞれ減少している。

(2) 特殊詐欺助長犯

類型別の検挙状況

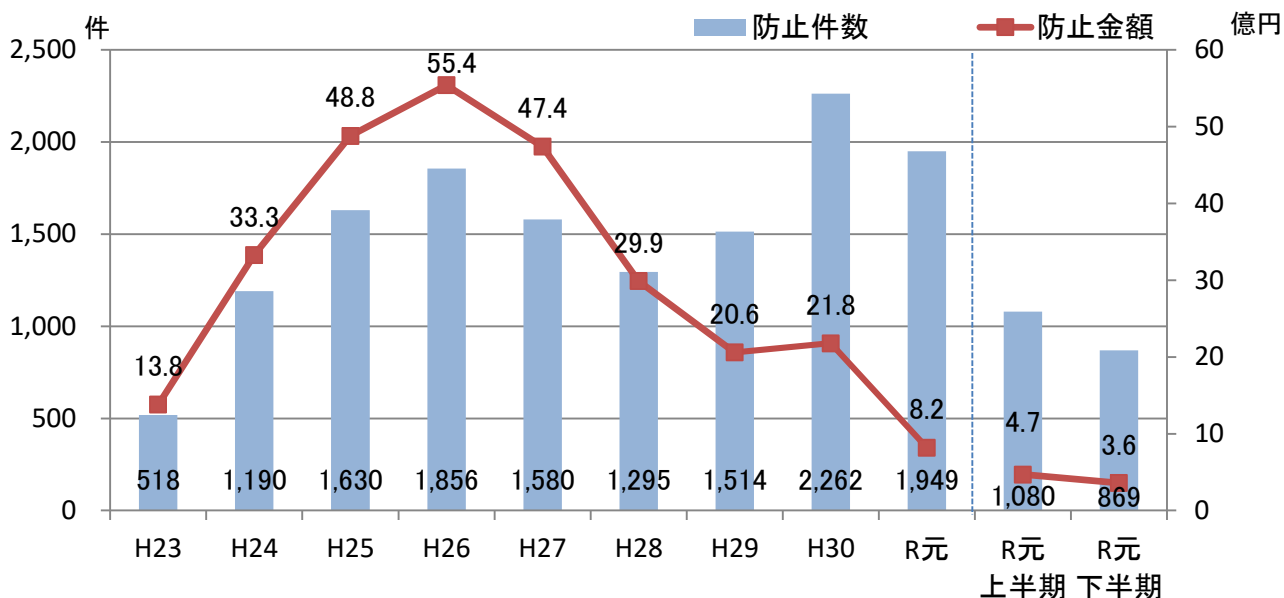
		口座開設詐欺	携帯電話契約詐欺	犯罪収益移転防止法違反	携帯電話不正利用防止法違反	合計
検挙件数	令和元年	107	46	351	5	509
	平成30年	110	44	333	7	494
	前年比	-3	+2	+18	-2	+15
	増減率	-2.7%	+4.5%	+5.4%	-28.6%	+3.0%
検挙人員	令和元年	79	30	335	2	446
	平成30年	74	39	353	6	472
	前年比	+5	-9	-18	-4	-26
	増減率	+6.8%	-23.1%	-5.1%	-66.7%	-5.5%

- 助長犯全体では、前年と比べ検挙人員は減少しているものの、検挙件数は増加している。
- 携帯電話契約詐欺及び犯罪収益移転防止法違反の検挙人員は減少したものの、検挙件数は共に増加している。

3 未然防止等の状況

(1) 全体の未然防止状況

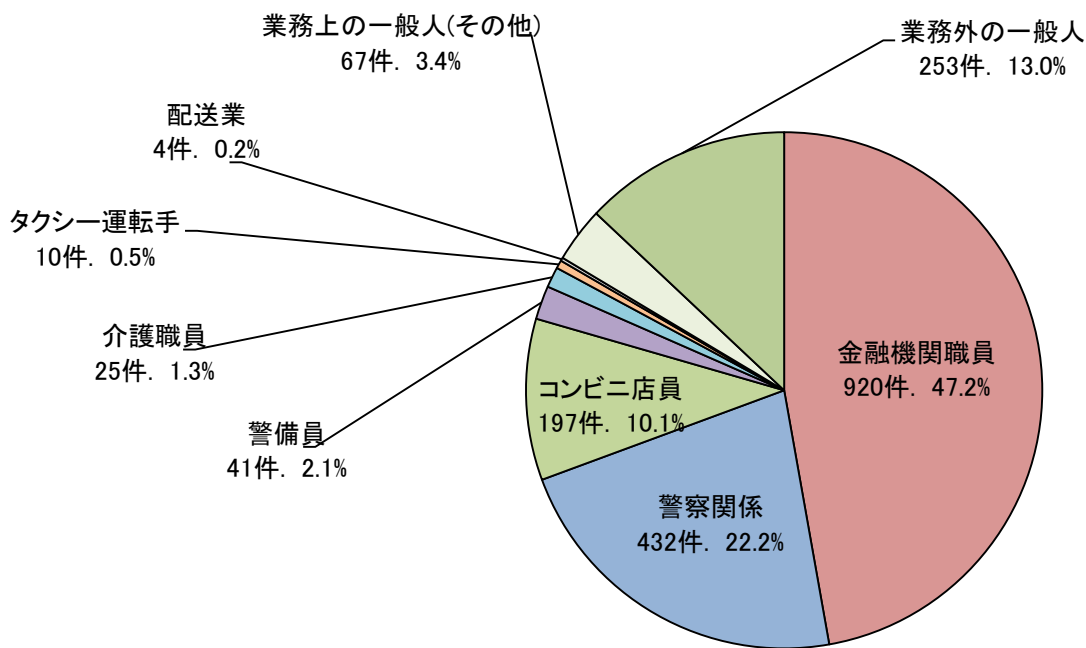
未然防止の推移



○ 未然防止件数及び防止金額は、前年と比べ共に減少している。

職種別の未然防止状況

【未然防止件数 1,949件】



	金融機関職員	警察関係	コンビニ店員	業務上の一般人					業務外の一般人	合計
				警備員	介護職員	タクシー運転手	配送業	その他		
令和元年	920	432	197	41	25	10	4	67	253	1,949
平成30年	1,196	531	234	44	26	7	6	70	148	2,262
前年比	-276	-99	-37	-3	-1	+3	-2	-3	+105	-313

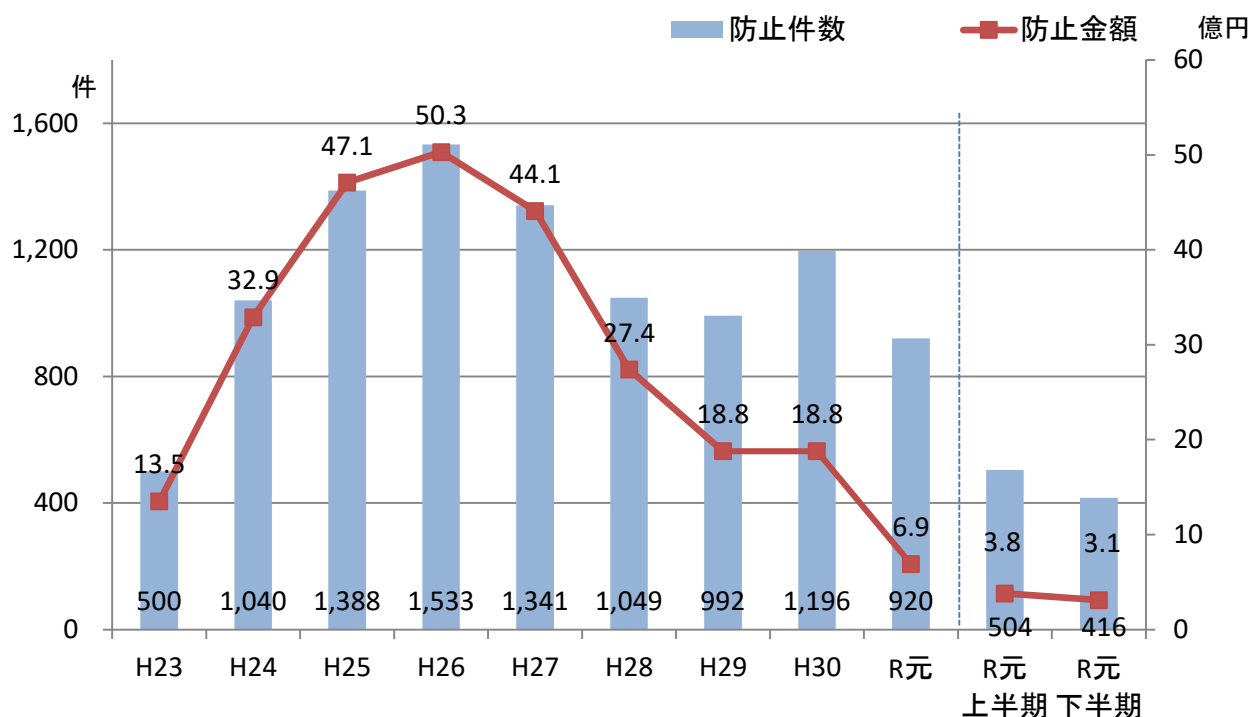
※ 業務外の一般人とは、友人、知人、ATM利用者等を示す。

○ 金融機関職員による未然防止が、全体の47.2%を占めている。

○ 業務外の一般人による未然防止が、前年と比べ105件増加している。

(2) 金融機関による未然防止状況

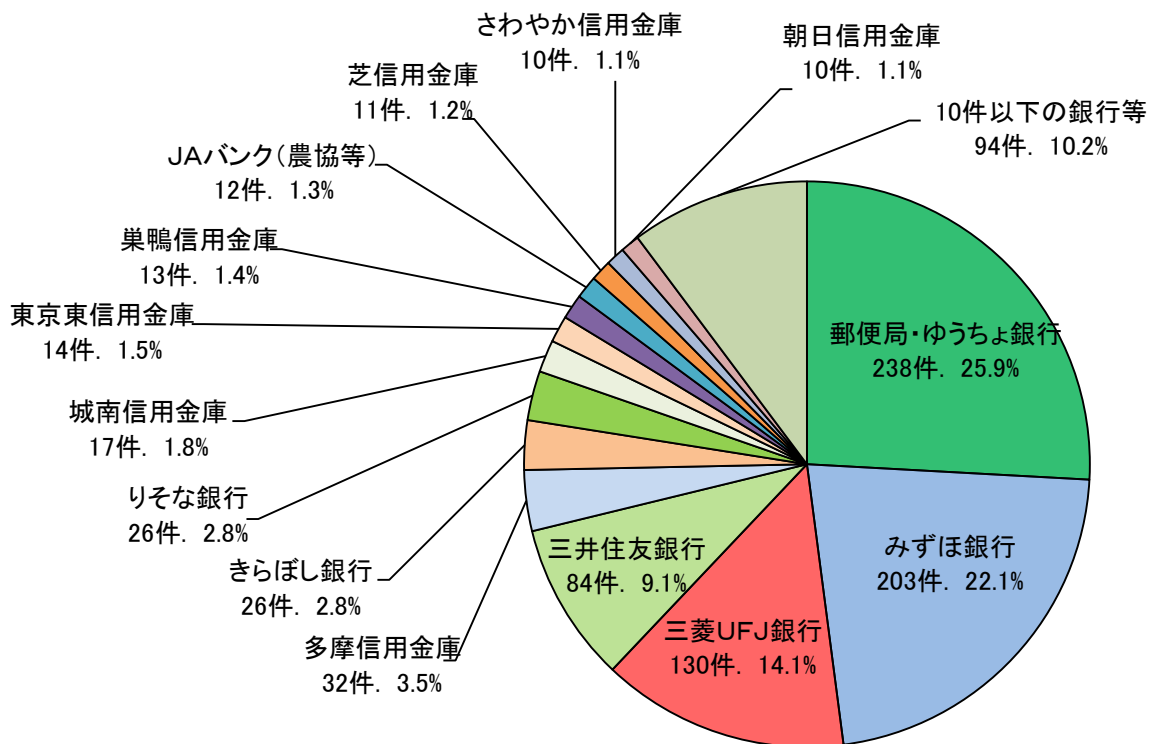
未然防止の推移



○ 未然防止件数及び防止金額は、前年と比べ共に減少している。

金融機関別の未然防止状況

【未然防止件数 920件】

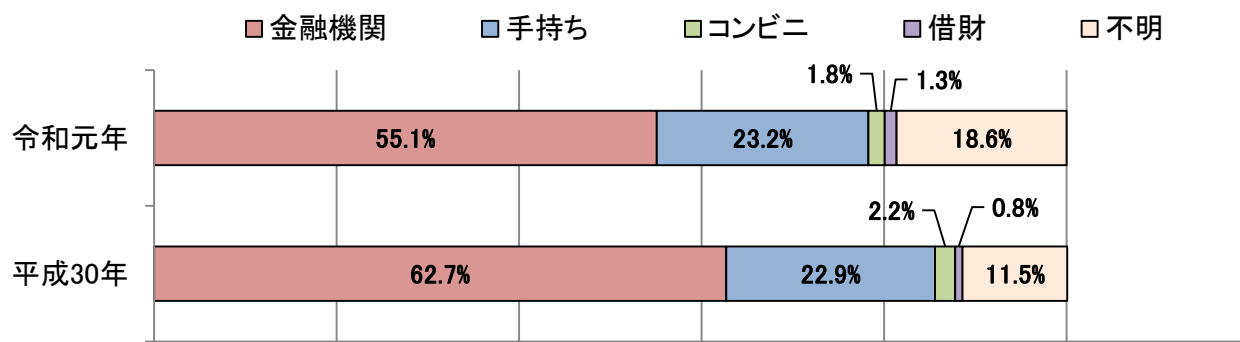


○ 金融機関別では、郵便局・ゆうちょ銀行が25.9% (238件) で最も多く、次いで、みずほ銀行が22.1% (203件) となっている。

(3) 全体の被害金調達状況

方法別の被害金調達状況

	金融機関	コンビニ	借財	手持ち	不明	合計
令和元年	625	20	15	263	211	1,134
割合	55.1%	1.8%	1.3%	23.2%	18.6%	100%
平成30年	1,542	54	19	562	282	2,459
割合	62.7%	2.2%	0.8%	22.9%	11.5%	100.1%

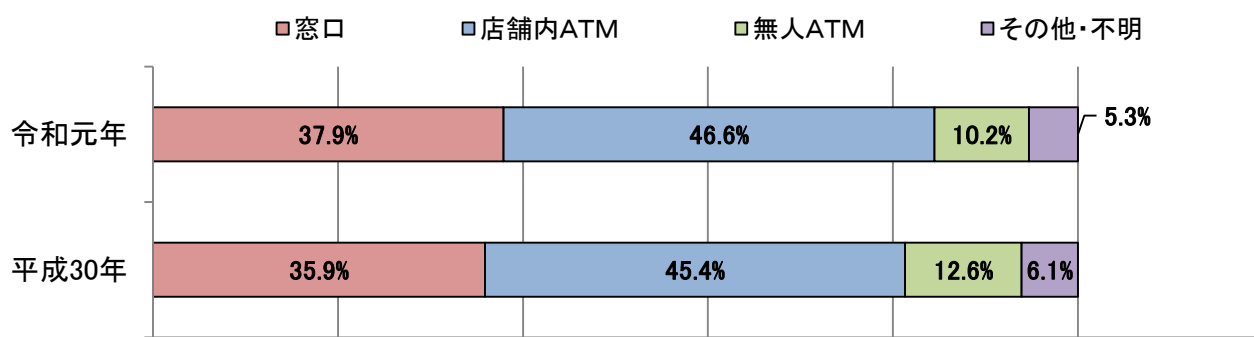


- 被害金の調達回数は、前年と比べ減少している。
- 金融機関での調達回数は、前年と比べ、大きく減少しているものの、全体の55.1%を占め、最も多くなっている。

(4) 金融機関における被害金調達状況

方法別の被害金調達状況

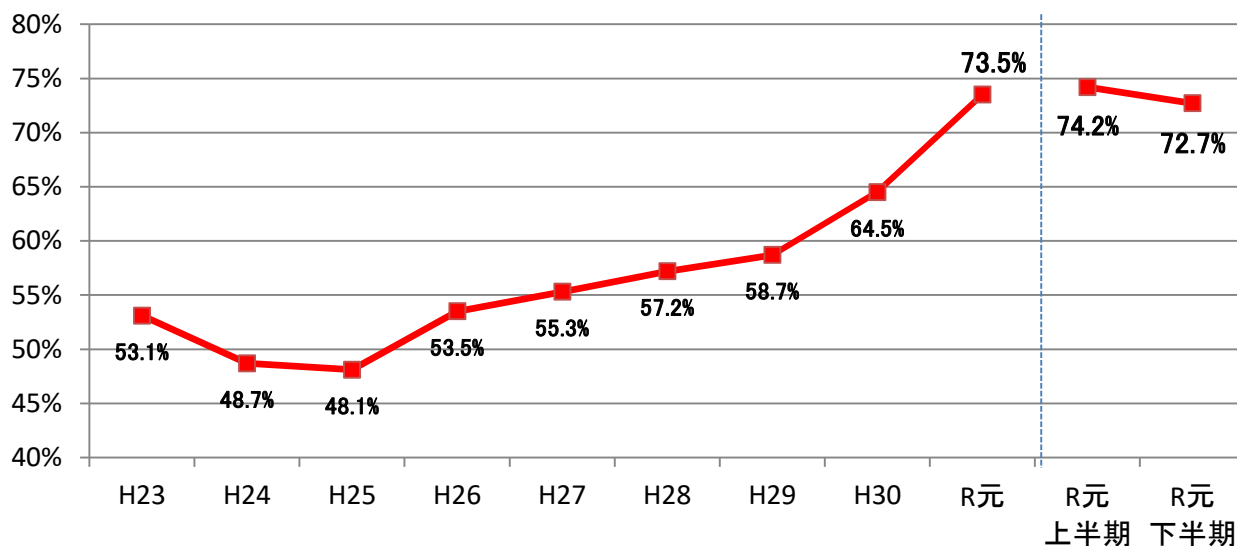
	窓口	A T M			その他 不明	合計
		店舗内ATM	無人ATM	小計		
令和元年	237	291	64	355	33	625
割合	37.9%	46.6%	10.2%	56.8%	5.3%	100%
平成30年	554	700	194	894	94	1,542
割合	35.9%	45.4%	12.6%	58.0%	6.1%	100%



- 調達回数は、窓口、ATM等のすべてにおいて、前年と比べ減少している。
- 店舗内、無人を問わず、ATMでの調達の割合は全体の56.8%を占めている。

(5) 金融機関窓口における阻止率

金融機関窓口における阻止率の推移



※阻止率＝窓口での未然防止件数(659件)÷(窓口での未然防止件数(659件)+窓口での引き出し件数(237件))×100

○ 金融機関窓口における阻止率は、H25年以降、年々高くなっている。

【現金調達時における「被疑者の指示」】

○ 「金融機関窓口」で、預貯金の引き出し又は定期預金等の解約をする理由

令和元年では

- ・ 旅行費用として
- ・ お墓を購入するため
- ・ リフォーム代、修繕費用として
- ・ 財産整理として自宅に保管しておきたい
- ・ 子供（孫）の結婚費用として
- ・ 車を購入するため

の指示が大半を占め、前年とほぼ変わりはない。

(6) 未然防止の好事例

1 金融機関職員と介護ヘルパーの連携による未然防止

防止者が窓口業務中、被害者（80代・女性）が来店し「300万下ろしてダイヤを買う」と申し出てきたが落ち着きがないことから、何らかの詐欺被害にあっていいる可能性があると思い、話を詳しく聞いていると、被害者の訪問介護を担当するヘルパーが来店し「〇〇さん（被害者）が来ていませんか。自宅を掃除していたら詐欺のような電話があったようで、だまされて銀行に来ていませんか」と訴え出たため、警察に通報し被害を未然に防止した。

2 タクシー運転手による未然防止

被害者（80代・女性）は息子を騙る男から「株で失敗した。300万必要だ」との電話に騙され、〇〇駅まで行って現金を渡そうとタクシーに乗車した。タクシーの車内で、被害者が防止者に「自宅にいたら息子から電話があり、お金を渡しに行くところです」と申し立て、話の内容から不審と感じ、「大切なお金のようなだし、その先の交番に相談したらどうですか」と申し向け、最寄りの交番まで被害者を送迎して被害を未然に防止した。

3 配送業者による未然防止

防止者は、荷物の配送先である宛先住所が空き室であったことを、あらかじめ把握していた。また、以前、配送先に警察が来ていたのを見かけたこともあり、すぐに不審に思い、配送を中止する旨を配送センターに連絡した。その後、連絡を受けた配送センター経由で警察に通報し、詳細を確認したところ、ハガキによる架空請求詐欺に騙された被害者（50代・女性）が現金を送付しようとしていたことが判明し、被害を未然に防止した。

4 友人による未然防止

被害者（80代・女性）は市役所職員を騙り「保険料の還付がある。キャッシュカードを預かる」という電話にだまされ、被害者宅前で銀行員を装う者にキャッシュカード1枚を交付した。その際、被害者と一緒に買い物をするため玄関先で待っていた防止者が、その会話の内容から詐欺ではないかと思い、110番通報するとともに銀行へ凍結依頼を実施し被害を未然に防止した。

5 マンション工事業者による未然防止

被害者（80代・女性）は警察官を騙り「あなたのカードを使って買い物をしている人がいる、カードを渡してください」という電話にだまされ、カードを封筒に入れ、エレベーターに乗って1階のエントランスホールに向かった。偶然乗り合わせた防止者は、被害者が「カードを渡さなきゃ」などつぶやいていることを聞き、不審に思った。その後、1階エントランスで、被害者がスーツ姿の男にカードを渡そうとしている状況を目撃したことから、男に対して「これは詐欺だろう、身分証を見せろ」と申し向けたところ、逃げるように立ち去ったため、110番通報し被害を未然に防止した。